

コロナ融資、 借入企業の 50.6%が 「5 割以上返済」

今後の返済に「不安」企業は依然として 1 割超

北海道・新型コロナ関連融資に関する企業の意識調査(2025 年 8 月)



本件照会先

渡辺 雄大(情報部長)
帝国データバンク
札幌支店情報部
011-272-3933(直通)
info.sapporo@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/10/29

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

新型コロナ関連融資の返済状況について、2025 年 8 月時点で同融資資金を借りている北海道内企業の 50.6%が「5 割以上返済」し、未返済は 4.7%に低下した。今後の返済に「不安を感じる」企業は、借入企業の 11.8%と依然として 1 割を超える水準となった。

※ 調査期間は 2025 年 8 月 18 日～8 月 31 日。調査対象は北海道内企業 1,104 社で、有効回答企業数は 477 社(回答率 43.2%)。なお、新型コロナ関連融資に関する調査は、2022 年 2 月、8 月、2023 年 2 月、8 月、2024 年 2 月、8 月に続いて 7 回目

はじめに

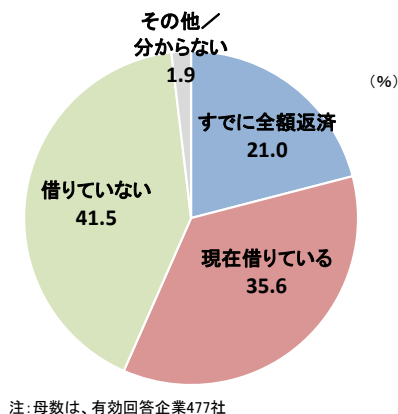
新型コロナウイルスの感染拡大により業績が悪化した中小企業を支援するため、2020年に始まった政府系金融機関と民間金融機関によるコロナ関連融資制度。実質無利子・無担保で行われた「ゼロゼロ融資」は2024年4月に最後の返済開始のピークを迎えた。一方で、制度を利用しながらも倒産に至った「ゼロゼロ融資後倒産」は、2025年1～6月の間に全国で316件判明、3年連続で同時期として300件を超えた。日本経済は、物価高や人手不足などの経営リスクを抱え、さらに「金利のある世界」に戻りつつある。

そこで、帝国データバンク札幌支店は、北海道内企業の新型コロナ関連融資に関する現在の状況や返済見通しなどについて調査を実施した。本調査は、TDB景気動向調査2025年8月調査とともにを行った。

新型コロナ関連融資、「5割以上返済」は50.6%まで増加、「未返済」は4.7%

新型コロナ関連融資¹について、「借りていない」企業は41.5%だった一方、「現在借りている」企業は35.6%となった。「すでに全額返済」した企業は21.0%だった。

コロナ関連融資の借入れ有無

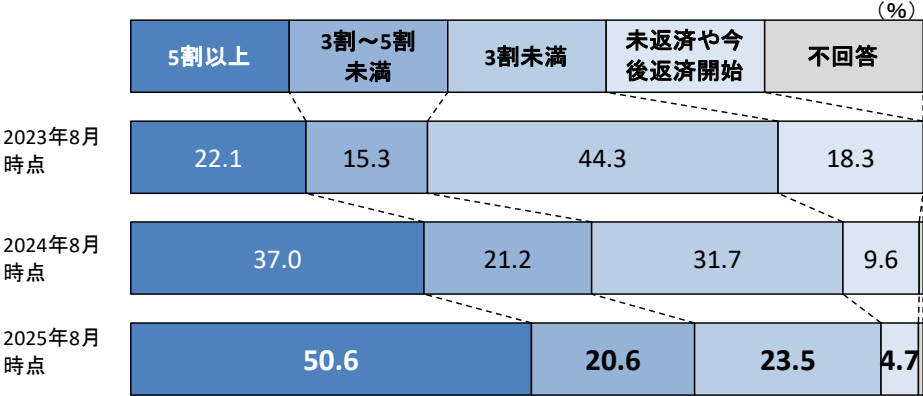


¹ 「コロナ関連融資」は、新型コロナウイルス感染症の拡大に対応して実施された政府系金融機関と民間金融機関による金利や返済条件が優遇された融資。代表的な例として、日本政策金融公庫の「新型コロナ特別貸付」「新型コロナ対応資本金性劣後ローン」など、日本政策投資銀行と商工中金の新型コロナ関連「危機対応融資」、民間融資のうち信用保証協会の「新型コロナウイルスに関する経営相談窓口」を通じた保証付き融資などがある

新型コロナ関連融資を「現在借りている」企業のうち、2025 年 8 月時点で融資の『5 割以上』を返済していたのは 50.6%となった。一方で、返済が『3 割未満』の企業は 23.5%、「未返済や今後返済開始」の企業は 4.7%だった。

2024 年 8 月時点と比較すると、『5 割以上』返済している企業は 13.6 ポイント増加した。一方で、『3 割～5 割未満』は 0.6 ポイント減少、『3 割未満』は 8.2 ポイント減少した。この結果、「未返済や今後返済開始」は 4.9 ポイント減少しており、新型コロナ関連融資の返済は着実に進んでいる。

融資の返済状況



注：母数は新型コロナ関連融資を「現在借りている」企業170社。2024年8月は208社。2023年8月は235社

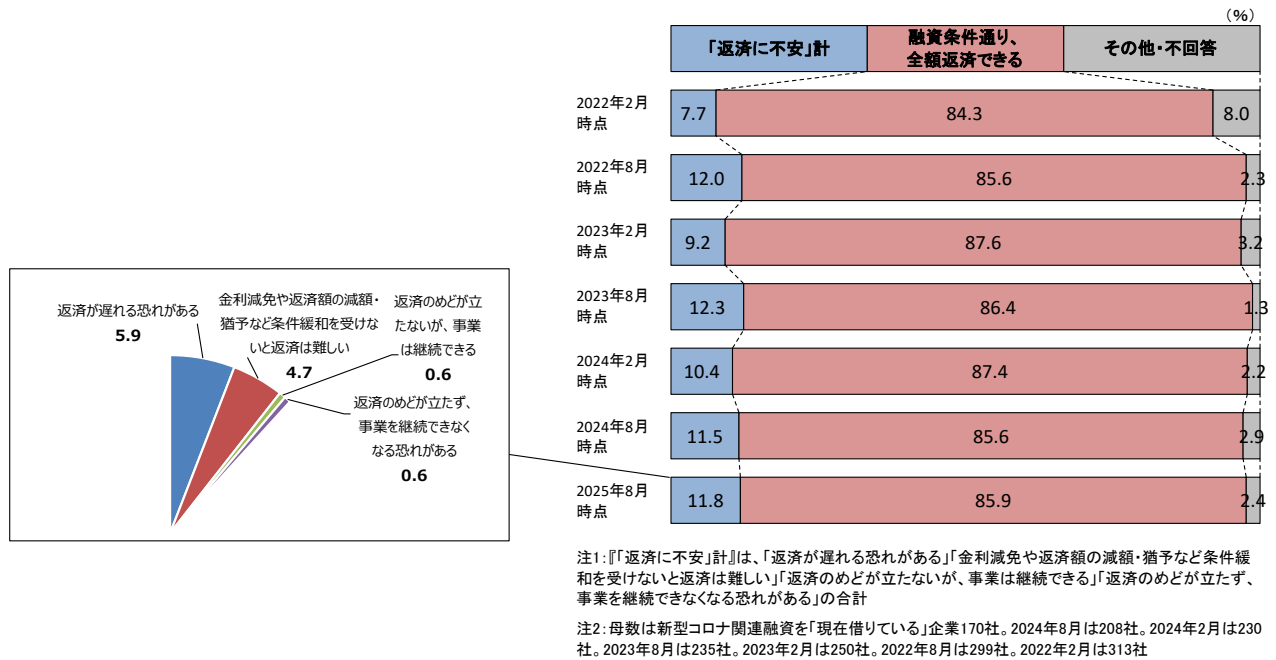
企業からのコメント ～融資の返済見通し～	業種
・ 何とか返済が出来ているが、これ以上状況が悪くなると返済できなくなる可能性がある	飲食料品・飼料製造
・ 小規模の衣料品小売り業界は新型コロナ禍のダメージが大きい。融資に関して金利、保証金について更に国の助成が必要	繊維・繊維製品・服飾品卸売
・ 金融機関は柔軟に対応してくれている。しかし、新規融資は困難で新規事業への投資や成長が困難である	飲食店

借入企業の 11.8%が今後「返済に不安」

新型コロナ関連融資を「現在借りている」企業に対して今後の返済見通しを尋ねたところ、85.9%は「融資条件通り、全額返済できる」と考えていた。

一方で、『返済に不安』を抱いている企業は 11.8%と前年(2024 年 8 月時点)より 0.3 ポイント増加した。その内訳をみると、「返済が遅れる恐れがある」(5.9%)や「金利減免や返済額の減額・猶予など条件緩和を受けないと返済は難しい」(4.7%)、「返済のめどが立たないが、事業は継続できる」(0.6%)、「返済のめどが立たず、事業を継続できなくなる恐れがある」(0.6%)となっている。返済に不安を感じている企業は、2023 年 8 月の 12.3%をピークに、2024 年 2 月で 10.4%と減少したが、2024 年 8 月(11.5%)、2025 年 8 月(11.8%)と再び増加している。

新型コロナ関連融資の今後の返済見通し



企業からのコメント ～融資の返済見通し～	業種
・ 条件緩和をお願いする可能性がある	電気機械製造
・ 資金繰り次第で繰り上げ返済を検討している	建設
・ 長いので早く返済を終えたい	建設
・ 全額返済する予定だが、返済後は会社を清算する予定	運輸・倉庫

おわりに

本調査によると、新型コロナ関連融資の返済は着実に進展していた。ただし、現在借り入れのある企業のうち 11.8% が今後の返済に「不安感」を抱いており、前年より 0.3 ポイント増加した。このことは、コロナ禍が収束し時間が経過するなかで、返済を巡って企業間の差が目立ってきていることを意味している。

コロナ禍において、新型コロナ関連融資で倒産が減少したことは、大きな効果だったと言える。しかし、国内外の経済情勢は不透明感を増し、企業を取り巻く事業環境はいつそう厳しさが高まっていくことも懸念される。今後は借り換え融資の返済開始時期がピークを迎えることも予想され、企業の倒産動向を注視する必要がある。日本銀行による政策金利の引き上げが今後も続くと、新規の借り入れによる金利負担が増してくる。企業が円滑に借入金の返済を行うためにも、収益力の拡大と個人消費を軸とした景気の回復が不可欠な条件であり、安定した経済政策の実行が求められる。